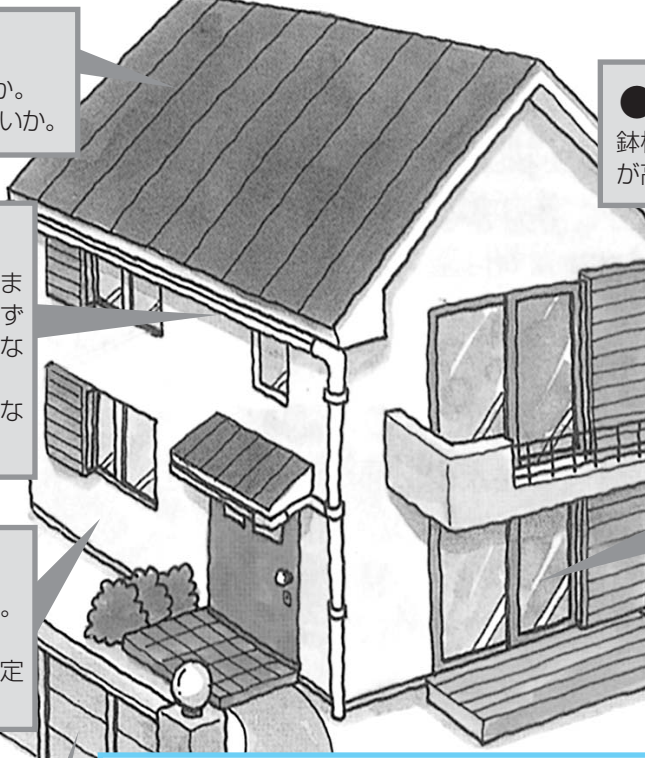


台風や豪雨への備え

家の中と外の風水害対策



- 屋根**
瓦のひび・ずれなどはないか。
トタンのめくれ・はがれはないか。
- 雨どい・雨戸**
雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目はずれや塗装のはがれ、腐りはないか。
雨戸にガタツキやゆるみはないか。
- 外壁**
モルタルの壁に亀裂はないか。
板壁に腐りや浮きはないか。
プロパンガスのボンベは固定されているか。
- ベランダ**
鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ。
- 窓ガラス**
ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を。
- ◆室内では**
 - むやみに外出しない。
 - 飲料水を確保しておく(断水への備え)。
 - 浸水の恐れがある場合、家財道具や寝具などの生活用品を高い場所へ移動。
 - 病人や乳幼児、障害者などを安全な場所へ。
 - 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備を。
 - 避難に備えて貴重品や非常持出品の準備を。
 - 台風情報を注意深く聞く。
- ブロック塀**
ひび割れや破損箇所はないか。



▲昨年10月の台風23号で冠水する国道28号(八木立石交差点)

昨年は二十三号をはじめ台風が三度淡路島を直撃し、暴風や集中豪雨、高潮により島内至るところで甚大な被害がありました。
市では早期復旧に向けて積極的に取り組んでいますが、未だ痛ましい爪跡を残しており、梅雨前線のわずかな雨でも二次災害が発生する危険性があります。大災害発生時には防災関係機関の対応だけでは限界があります。いざというときに地域で助け合いができるよう「事前の準備」と「心構え」を万全にして災害に備えましょう。

家族一人ひとりの役割分担

いざというときに混乱しないためにも、家族一人ひとりの役割を話し合うとともに、緊急時の連絡方法を確認しましょう。

また、家の内外をチェックし、雨どいや側溝の掃除、危険箇所の修理や補強、さらに浸水の恐れがある地域は家財道具を高いところへ移しておきましょう。

となり近所の助けあい

阪神・淡路大震災の統計データによると、被災者の約八パーセントの方が地域の人々により助けられています。データから見ても災害時に




気象情報の収集

テレビやラジオ、インターネットなどで警報、注意報などの情報を把握しておきましょう。ただし、台風二十三号時の十一時～十八時のエリア別降雨量予測は一五四^{mm}でしたが、実際の降雨量は三二二^{mm}で二倍以上の誤差がありました。予報を過信した行動は控えましょう。

気象情報の収集

は、地域での助け合いが非常に重要になります。現在、市では各地域で自主防災組織の確立を進めています。自主防災組織は災害に強い地域を目指して、日頃から防災環境の確認や訓練の実施、資機材の点検などを行い、災害時には効率的に防災活動を展開することが出来ます。ぜひ、各地域で組織を確立しましょう。



台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

台風の大きさと階級分け

階級	風速17.2m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上 800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

▼台風
台風の大きさは「風速毎秒十七・二以上の半径」、強さは「最大風速」で表されています。※気象庁による風速は十分間の平均速度。

南あわじ市災害対策本部

■災害対策本部長 中田勝久市長
■設置場所 南淡庁舎まちづくり・防災課
※震度4程度以上の揺れを感じたときなど、津波発生の恐れがある場合は、南あわじ市文化体育館「元気の森ホール」に設置する。
■現地災害対策本部
各庁舎に設置し、地域の状況を正確に把握し、災害応急対策を行う。

- ・緑庁舎(健康福祉部内)
本部長 健康福祉部長
- ・西淡庁舎(都市整備部内)
本部長 都市整備部長
- ・三原庁舎(農業振興部内)
本部長 農業振興部長
- ・南淡庁舎(災害対策本部内)
災害対策本部長が兼務

市の防災体制を知っておこう

市では雨や高潮等の規模により災害警戒本部または災害対策本部を設置し、警戒または災害応急活動に当たります。

▼災害警戒本部
災害警戒本部は、大雨注意報や高潮注意報などが発表され、かつ小規模災害が発生する恐れがあるときに南淡庁舎まちづくり・防災課に設置。中田勝久市長が警戒本部長に

▼災害対策本部
災害対策本部は、大雨警報や洪水警報、高潮警報などが発表されるなど、災害が発生する恐れがあるときに南淡庁舎まちづくり・防災課に設置。同時に各庁舎に現地災害対策本部を設置し、被害状況の取りまとめや避難所の開設、また、消防団や町内会等と連携し防災応急対策を行います。

なり、職員が市内の河川や道路等の警戒に当たります。